

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第6479752号
(P6479752)

(45) 発行日 平成31年3月6日 (2019.3.6)

(24) 登録日 平成31年2月15日 (2019.2.15)

(51) Int. Cl.	F I
B 6 5 D 33/25 (2006.01)	B 6 5 D 33/25 A
B 6 5 D 33/00 (2006.01)	B 6 5 D 33/00 C
A 4 4 B 19/16 (2006.01)	A 4 4 B 19/16

請求項の数 14 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2016-501034 (P2016-501034)	(73) 特許権者	515252949
(86) (22) 出願日	平成26年3月10日 (2014.3.10)		レイノルズ・プレスト・プロダクツ・インコーポレイテッド
(65) 公表番号	特表2016-511204 (P2016-511204A)		アメリカ合衆国・イリノイ・60045・
(43) 公表日	平成28年4月14日 (2016.4.14)		レイク・フォレスト・ウェスト・フィールド・コート・1900
(86) 国際出願番号	PCT/US2014/022679	(74) 代理人	100108453
(87) 国際公開番号	W02014/150238		弁理士 村山 靖彦
(87) 国際公開日	平成26年9月25日 (2014.9.25)	(74) 代理人	100110364
審査請求日	平成29年2月15日 (2017.2.15)		弁理士 実広 信哉
(31) 優先権主張番号	61/792,058	(74) 代理人	100133400
(32) 優先日	平成25年3月15日 (2013.3.15)		弁理士 阿部 達彦
(33) 優先権主張国	米国 (US)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 子供にとって安全な再開鎖可能なバッグのためのフード構造を含むクロージャシステムおよびその方法

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

子供にとって安全なスライダジッパークロージャシステムであって、

(a) 選択的に開閉可能なジッパークロージャと；

(b) 前記ジッパークロージャを開閉するために前記ジッパークロージャに動作可能に取り付けられたスライダと；

(c) 前記ジッパークロージャが閉じられた場合に前記スライダをカバーし、前記ジッパークロージャの開放開始ポイントにおいて前記ジッパークロージャをカバーする取り外し不可能なフードであって、前記スライダが物理的に露出しないように上端部と側部とが固定状態で連結され、前記開放開始ポイントから前記ジッパークロージャに沿って部分的に延在する、取り外し不可能なフードと；

を備えており、

前記スライダは、前記ジッパークロージャに沿ってスライドするよう前記取り外し不可能なフードの下から移動でき、

前記取り外し不可能なフードは不透明であることを特徴とするスライダジッパークロージャシステム。

【請求項 2】

取り外し可能なフードをさらに備えることを特徴とする請求項 1 に記載のスライダジッパークロージャシステム。

【請求項 3】

請求項 1 または請求項 2 に記載の、子供にとって安全なスライダジッパークロージャシステムを備えることを特徴とするフレキシブルパッケージ。

【請求項 4】

開放および再閉鎖が可能な開口を有するジッパー付きプラスチックバッグであって、前記ジッパー付きプラスチックバッグは、

(a) 前記開口を形成する上部と底部と第 1 および第 2 の対向する側部とを各々が有する第 1 および第 2 のパネルと；

(b) 前記開口を閉鎖するよう相互連結するためかつ前記開口を開放するよう連結解除するための、前記第 1 および第 2 のパネルの前記上部の付近にあるジッパークロージャと；

(c) 前記ジッパークロージャの第 1 の部分をカバーし、前記ジッパークロージャの開放開始ポイントにおいて前記ジッパークロージャをカバーする取り外し不可能なフードセクションであって、スライダが物理的に露出しないように上端部と側部とが固定状態で連結され、前記開放開始ポイントから前記ジッパークロージャに沿って部分的に延在する、取り外し不可能なフードセクションを少なくとも含むフード構造と；
を備えており、

前記スライダは、前記ジッパークロージャに沿ってスライドするよう前記取り外し不可能なフードの下から移動でき、

前記取り外し不可能なフードセクションは不透明であることを特徴とするジッパー付きプラスチックバッグ。

【請求項 5】

(a) 前記フード構造は、開ポジションと閉ポジションとを含み；

(i) 前記閉ポジションでは、前記フード構造は、前記ジッパークロージャの広がり全体をカバーし；かつ

(i i) 前記開ポジションでは、前記フード構造は、前記ジッパークロージャの前記第 1 の部分だけをカバーする前記取り外し不可能なフードのみを含む；ことを特徴とする請求項 4 に記載のジッパー付きプラスチックバッグ。

【請求項 6】

(a) 前記フード構造は、前記第 1 および第 2 のパネルに固定されており；かつ、

(b) 前記閉ポジションでは、前記フード構造は、取り外し可能なフードセクションと前記取り外し不可能なフードセクションとを含み；

前記取り外し可能なフードセクションは、取り外された際に前記ジッパークロージャが露出されるよう前記第 1 および第 2 のパネルから取り外し可能であることを特徴とする請求項 5 に記載のジッパー付きプラスチックバッグ。

【請求項 7】

(a) 前記ジッパークロージャに配向された前記スライダをさらに備えており；前記スライダは、雄型トラックおよび雌型トラックに沿って移動することにより前記開口の開閉時に前記ジッパークロージャと協働することを特徴とする請求項 4 から請求項 6 のいずれか一項に記載のジッパー付きプラスチックバッグ。

【請求項 8】

(a) 前記取り外し不可能なフードセクションは、前記スライダを収容するサイズになされていることを特徴とする請求項 7 に記載のジッパー付きプラスチックバッグ。

【請求項 9】

開放および再閉鎖が可能な開口を有するジッパー付きプラスチックバッグを操作する方法であって、

前記方法は：

(a) 前記開口を形成する上部と、底部と、第 1 および第 2 の対向する側部と、を各々が有する第 1 および第 2 のパネルと；前記開口を閉鎖するよう相互連結するためかつ前記開口を開放するよう連結解除するための、前記第 1 および第 2 のパネルの前記上部の付近にあるジッパークロージャと；前記ジッパークロージャの第 1 の部分をカバーし、前記

10

20

30

40

50

ジッパークロージャの開放開始ポイントにおいて前記ジッパークロージャをカバーする取り外し不可能なフードセクションであって、スライダが物理的に露出しないように上端部と側部とが固定状態で連結され、前記開放開始ポイントから前記ジッパークロージャに沿って部分的に延在し、前記スライダが前記ジッパークロージャに沿ってスライドするよう前記取り外し不可能なフードの下から移動できる、不透明な取り外し不可能なフードセクションを少なくとも含むフード構造と；を有するジッパー付きプラスチックバッグを提供するステップと；

(b) 前記取り外し不可能なフードセクション内の前記ジッパークロージャを利用することによって前記開口を開放し、雄型形状部および雌型形状部の連結解除を行うステップと；

を含むことを特徴とする方法。

【請求項 10】

(a) 前記フード構造は、取り外し可能なフードセクションと前記取り外し不可能なフードセクションとを含み；

(b) 前記方法は、前記開口を開放するステップの前に、前記ジッパークロージャの一部を露出させるために前記取り外し可能なフードセクションを取り外すステップをさらに含むことを特徴とする請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

(a) 前記取り外し可能なフードセクションを取り外すステップは、分割ラインに沿って前記第 1 および第 2 のパネルから前記取り外し可能なフードセクションを引き離すステップを含むことを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

(a) 前記スライダが前記ジッパークロージャに配置されており；かつ、

(b) 前記方法は、前記取り外し不可能なフードセクション内に前記スライダを配置することによって、かつ前記雄型形状部および前記雌型形状部の連結解除によって前記開口を開放するために雄型トラックおよび雌型トラックに沿って前記スライダを移動させることによって、前記開口を開放するステップを含むことを特徴とする請求項 9 から請求項 11 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 13】

(a) 前記スライダを移動させるステップは、指で前記スライダを引掛けるステップを含むことを特徴とする請求項 12 に記載の方法。

【請求項 14】

(a) 前記スライダを移動させるステップは、前記取り外し不可能なフードセクションを一時的に引き剥がすステップを含むことを特徴とする請求項 12 に記載の方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本出願は、PCT 国際特許出願として 2014 年 3 月 10 日付で出願されたものであり、2013 年 3 月 15 日付の米国仮出願番号 61/792,058 に基づく優先権を主張しており、参照によりその開示が全体的に本明細書に組み込まれる。

【0002】

本開示は、再閉鎖可能なジッパー付きポーチに関するものである。より詳細には、本開示は子供にとって安全な再閉鎖可能なジッパー付きポーチに関するものである。

【背景技術】

【0003】

ジッパークロージャを有する再閉鎖可能なポーチは、子供も大人も容易に開けることができる。ポーチが潜在的に危険な内容物を有するよう意図された場合、子供にとっては開けることがより困難であるが大人や高齢者は容易に開けられるクロージャおよび方法を提供することが必要とされる。

【発明の概要】

10

20

30

40

50

【課題を解決するための手段】

【0004】

一態様では、子供にとって安全で子供が扱えないスライダジッパークロージャシステムが、スライダをカバーするために取り外し不可能なフードを有するように提供される。

【0005】

このスライダジッパークロージャシステムは、閉ポジションではスライダをカバーするよう配置された取り外し不可能なフードを含むことができる。

【0006】

スライダは、ジッパーに沿ってスライドするよう取り外し不可能なフードの下から移動できる。

10

【0007】

小さな子供は、取り外し不可能なフードの下からスライダを移動させるための方法を直感的に理解できない。

【0008】

そうした取り外し不可能なフードの下からスライダを移動させるための方法は、小さな子供には一般的にはない物理的な器用さを必要とし得る。

【0009】

取り外し不可能なフードは、取り外し可能なフード部分を伴ってもよい。

【0010】

取り外し不可能なフードは不透明なものとすることができる。

20

【0011】

別の態様では、子供にとって安全なスライダジッパークロージャシステムを有するフレキシブルなパッケージが、スライダをカバーする取り外し不可能なフードを有するように提供される。

【0012】

フレキシブルなパッケージは、閉ポジションではスライダをカバーするよう配置される取り外し不可能なフードを含んでもよい。

【0013】

フレキシブルなパッケージは、ジッパーに沿ってスライドするように取り外し不可能なフードの下から移動させられるスライダを含んでもよい。

30

【0014】

フレキシブルなパッケージは、取り外し不可能なフードの下からスライダを移動させる方法を含んでもよく、それは子供は直感的に理解できない。

【0015】

フレキシブルなパッケージは取り外し不可能なフードの下からスライダを移動させる方法を含んでもよく、これは小さな子供には一般的にはない物理的な器用さを必要とする。

【0016】

フレキシブルなパッケージは、取り外し可能なフード部分を伴う取り外し不可能なフードを含んでもよい。

【0017】

フレキシブルなパッケージは、不透明な取り外し不可能なフードを含んでもよい。

40

【0018】

一態様では、開放および再閉鎖可能な開口を有するジッパー付きプラスチックバッグが提供される。バッグは第1および第2のパネルを含み、これらパネルの各々が、開口を形成する上部と、底部と、第1および第2の対向する側部と、を有する。第1および第2のパネルは、パネルの各々の底部とパネルの各々の第1の対向する側部とパネルの各々の第2の対向する側部とに沿って互いに連結される。ジッパークロージャが提供される。ジッパークロージャは雄型および雌型トラックを含む。雄型トラックは、第1のパネルの上部付近において雄型形状部を含む。雌型トラックは、第2のパネルの上部付近において雌型形状部を含む。雄型および雌型形状部は、開口を閉じるよう相互連結するためかつ開口を

50

開けるよう連結解除するための相補的な断面を有する。フード構造は、ジッパークロージャの第1の部分のカバーする取り外し不可能なフードセクションを少なくとも含む。

【0019】

例示的な態様では、フード構造は、開ポジションと閉ポジションとを含む。閉ポジションでは、フード構造はジッパークロージャの広がり全体をカバーする。開ポジションでは、フード構造は、取り外し不可能なフードセクションのみを含み、かつジッパークロージャの第1の部分だけをカバーする。

【0020】

例示的な態様では、フード構造は、第1および第2のパネルに固定される。閉ポジションでは、フード構造は、取り外し可能なフードセクションと取り外し不可能なフードセクションとを含む。取り外し可能なフードセクションは、取り外された際にジッパークロージャを露出するよう、第1および第2のパネルから取り外される。

10

【0021】

例示的な構造では、第1および第2のパネルは、取り外し可能なフードセクションの取り外しを可能にするために切り込みが入れられている。

【0022】

例示的な態様では、取り外し不可能なフードセクションは不透明である。

【0023】

例示的な態様では、スライダが、形状部材を開閉するために雄型および雌型トラックに沿って移動するよう設けられる。取り外し不可能なフードセクションは、スライダを収容するようなサイズに形成される。

20

【0024】

別の態様では、開放および再閉鎖可能な開口を有するジッパー付きプラスチックバッグを扱う方法が提供される。この方法は、開口を形成する上部と底部と第1および第2の対向する側部とを各々が有する第1および第2のパネルを有するジッパー付きプラスチックバッグを提供するステップを含む。第1および第2のパネルは、それらパネルの各々の底部とそれらパネルの各々の第1の対向する側部とそれらパネルの各々の第2の対向する側部とに沿って互いに連結される。ジッパークロージャは雄型および雌型トラックを含む。雄型トラックは、第1のパネルの上部付近において雄型形状部を含む。雌型トラックは、第2のパネルの上部付近において雌型形状部を含む。雄型および雌型形状部は、開口を開けるよう相互連結するためかつ開口を開けるよう連結解除するための相補的な断面形状を有する。フード構造は、ジッパークロージャの第1の部分のカバーする取り外し不可能なフードセクションを少なくとも含む。この方法は、取り外し不可能なフードセクション内のジッパークロージャを利用して雄型および雌型形状部を連結解除することによって開口を開放するステップを含む。

30

【0025】

例示的な態様では、フード構造は、取り外し可能なフードセクションと取り外し不可能なフードセクションとを含む。この方法は、開口を開けるステップの前に、ジッパークロージャの一部を露出させるために取り外し可能なフードセクションを取り外すステップを含む。

40

【0026】

例示的な態様では、取り外し可能なフードセクションを取り外すステップは、分割ラインに沿って第1および第2のパネルから取り外し可能なフードセクションを引き離すステップを含む。

【0027】

例示的な態様では、スライダがジッパークロージャに設けられており、上記方法は、取り外し不可能なフードセクション内にスライダを配置し、雄型および雌型形状部を連結解除することによって開口を開放するために雄型および雌型トラックに沿ってスライダを移動させることによって、前記開口を開放するステップを含む。

【0028】

50

例示的な態様では、スライダを移動させるステップは、取り外し不可能なフードセクションを介してスライダを摘まむステップ、または指でスライダを引掛けるステップ、もしくは取り外し不可能なフードセクションを一時的に引き剥がすステップのいずれかを含む。

【 0 0 2 9 】

以下では望ましい製品の特徴または方法のさまざまな例をある程度説明するが、一部は上述の記載から明らかにされるかあるいはこの開示のさまざまな態様の実践により明らかとなるだろう。本開示の態様は個々の特徴および特徴の組み合わせに関連し得る。上述の概略的な説明および以下の詳細な説明の両方が単なる例示であり、本発明の範囲を制限するものではないことを理解されたい。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 3 0 】

【 図 1 】 本開示の原理に基づいて構成されたバッグの取り外し可能なフードセクションがバッグの残りの部分から取り外された状態で図示される、ジップークロージャおよびスライダを有する再閉鎖可能なバッグの一実施形態の概略正面図である。

【 図 2 】 取り外し可能なフードセクションが取り外される前の、図 1 のバッグの概略断面図である。

【 図 3 】 図 1 のバッグに使用可能な例示的な雄型および雌型トラックならびにスライダの端面図である。

【 図 4 】 取り外し可能なフードセクションが取り外される前のバッグを示す、図 1 の再閉鎖可能なバッグの正面図である。

【 図 5 】 図 1 および図 4 のバッグに使用可能な 1 つの例示的なスライダの斜視図である。

【 図 6 】 図 5 のスライダの上面図である。

【 図 7 】 図 5 のスライダの側面図である。

【 図 8 】 図 5 のスライダの端面図である。

【 図 9 】 図 1 および図 4 のバッグに使用可能な例示的な雄型および雌型トラックの端面図である。

【 図 1 0 】 図 1 および図 4 のバッグに使用可能な別の例示的な雄型および雌型トラックの端面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 3 1 】

図 1 および図 4 を参照すると、形成されたプラスチックファスナあるいはジップークロージャ 1 1 を有するポーチ、パッケージ B あるいは熱可塑性バッグ B が図示されている。ジップークロージャ 1 1 は、スライダ 1 0 を用いて任意で開放および再閉鎖が可能なものであってもよい。

【 0 0 3 2 】

スライダ 1 0 は、図 1 ではバッグ B の上縁部または開口 4 0 にジップークロージャ 1 1 が取り付けられた状態で図示される。例示的な実施形態では、バッグ B は、一枚のフレキシブルなプラスチックシートから形成される。プラスチックシートは折り重ねられており、第 1 および第 2 の対向する本体パネル 2 5 および 2 6 を備える。本体パネル 2 5 および 2 6 は、一対の側部 2 8 および 3 0 と一対の側部 2 8 および 3 0 の間に延在する底部 3 2 とに沿って互いに固定状態で連結されている。好ましくはバッグ B は、バッグ B の底部 3 2 の反対側に形成された開口 4 0 に沿って延在するジップークロージャ 1 1 を有しており、ジップークロージャ 1 1 は雄型トラック 1 2 と雌型トラック 1 3 とを有する。

【 0 0 3 3 】

図 3 は、ジップークロージャ 1 1 に動作可能に取り付けられる 1 つの使用可能なスライダ 1 0 の端面図である。図 5 ~ 図 8 には、バッグ B とともに使用できる別のスライダ 1 0 を示す。図 9 および図 1 0 には、バッグ B とともに使用可能なさらに例示的な 2 つのジップークロージャ 1 1 を示す。同様の部品には同じ参照符号が付与される。

【 0 0 3 4 】

図 3 に図示されるようにトラック 12 および 13 は、相互連結する雄型形状部 14 および雌型形状部 15 を有しており、雄型形状部 14 および雌型形状部 15 は、その長さにならって、個々のトラックにおいてリブおよび溝要素の形態で延在する。トラック 12 および 13 は、フィンとともに別々に押出成形されてバッグの開口 40 の側部のそれぞれに取り付けられてもよく、あるいはバッグの開口 40 の側部と一体的に押出成形されてもよい。トラック 12 および 13 が別々に押出成形された場合、これらトラックは、トラック内に組み込まれた第 1 および第 2 のフィン 16 のそれぞれによって取り付け可能である、つまりバッグの開口 40 に対してヒートシールされてもよい。

【0035】

雄型形状部 14 および雌型形状部 15 は相補的な断面形状を有しており、ともに要素の底部を押圧して該要素をその上部へ向けて閉ポジションへ回転させることによって、閉じられる。相互連結する雌型および雄型形状部 14 および 15 の断面形状は米国特許第 5,007,143 号明細書に開示されるようなものとすることができる（この参照により本明細書に組み込まれる）。雄型および雌型形状部はまた、開閉のためにスライダを使用しない押し留め式 (press to close) ジッパー形状部であってもよい。多くの実施形態が使用可能である。

【0036】

スライダ 10 は、バッグ B の上部においてジッパークロージャ 11 に跨っており、ジッパークロージャ 11 の相互連結トラック 12 および 13 を開閉するよう構成されている。スライダ 10 は、ナイロン（登録商標）、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリスチレン、デルリンまたは ABS などの適切なプラスチックから成形されてもよい。スライダ 10 は、米国特許第 6,376,035 号明細書（この参照により本明細書に組み込まれる）に開示されているものであってもよい。他の実施形態も利用可能である。

【0037】

例示的な実施形態では、スライダ 10 は、横方向支持部材または本体 17 を含む反転した U 字形状の部材を備えており、それから分離フィンガ 18 が下方に延在する。本体 17 は対向する側壁 20, 21 を含んでおり、側壁の各々が、内側に延出するショルダ構造 22 を有する。本体 17 は、トラック 12, 13 に跨る側壁 20, 21 とともにトラック 12 および 13 の上縁部に沿って移動するよう構成され、かつフィンガ 18 はトラック 12 および 13 の間に配置される。ショルダ構造 22 は、第 1 のスライダ 10 がトラック 12 および 13 の縁部から持ち上がることが防止されるように、ジッパークロージャ 11 の底部と係合しており、同時にスライダ 10 はジッパークロージャ 11 に跨っている。

【0038】

スライダ 10 は、開端部 50 と閉端部 52 とを有する。図 1 を参照すると、スライダ 10 の開端部 50 が、トラック 12 および 13 と係合するフィンガ 18 によって雄型形状部 14 および雌型形状部 15 を分離または連結解除する。スライダ 10 の閉端部 52 は、第 1 のスライダ 10 がファスナを閉じる方向に移動された場合に、雄型形状部 14 および雌型形状部 15 を相互連結関係となるように押圧する。

【0039】

例示的な実施形態では、ジッパークロージャ 11 の両端部には末端クリップ 23 が設けられている（図 1 および図 4）。各端部クリップ 23 は、ジッパークロージャ 11 の上部を覆うストラップ部材を含むことができる。

【0040】

上述のようにバッグ B の内容物 54 が潜在的に有害であるか危険である場合は、子供がバッグ B の内容物を取り出すことを防止する助けとなる、子供が使用できないクロージャを有することが望まれる。本開示の原理によれば、バッグ B は子供が使用できない特徴を有する。

【0041】

バッグ B はフード構造 60 を含む。フード構造 60 は、ジッパークロージャ 11 の第 1 の部分 64 を覆う取り外し不可能なフードセクション 62 を少なくとも含む。図 1 から明

10

20

30

40

50

らかなように、スライダ 10 を使用するよう選択した場合、取り外し不可能なフードセクション 62 は、その中にスライダ 10 を収納してカバーするようなサイズになされる。この様式では、スライダ 10 は取り外し不可能なフードセクション 62 内に留まって、視野から特に子供の視界から隠すことができる。好ましい実施形態では、取り外し不可能なフードセクション 62 は不透明であるつまり透明ではない。これは、子供が視覚的に見付けないようにスライダ 10 を隠すことにさらに役に立つ。

【0042】

スライダ 10 を使用しないよう選択した場合、ジッパークロージャ 11 の第 1 の部分 64 は、取り外し不可能なフードセクション 62 によってカバーされる開放開始ポイントにある。

10

【0043】

一般的に、取り外し不可能なフードセクション 62 は、スライダ 10 または開放開始ポイントのいずれかを含むジッパークロージャ 11 の第 1 の部分 64 をカバーしており、そのためジッパークロージャ 11 を開放するためにある程度の器用さが必要となる。

【0044】

図示される例示的な実施形態では、フード構造 60 は開ポジションと閉ポジションとを含む。閉ポジションにおいて、フード構造 60 は (1 つの非限定的な例では) ジッパークロージャ 11 の広がり全体をカバーできる。例えば図 2 および図 4 の実施形態は、バッグ B からフード構造 60 の一部が取り外される前のフード構造 60 を示す。閉ポジションでは、ジッパークロージャ 11 またはスライダのうち物理的に露出されている部分はない；つまりジッパークロージャ 11 およびスライダ 10 全体がフード構造 60 によってカバーされる。

20

【0045】

別の非限定的な例では、フード構造 60 は、ジッパークロージャ 11 の広がり全体より小さくすることができる、つまりジッパークロージャ 11 に沿って部分的にしか延在しない部分的なフードとすることができる。フード構造 60 は、いくつかの非限定的な例では、さまざまなサイズのものとすることができ、かつ 1 つ以上の側部を開放できる。いくつかの例では、フード構造 60 は、タック、接着剤または強力なシールを用いて本体パネル 25, 26 に保持されかつ閉じられてもよい。多くの変形例が利用できる。

【0046】

30

開ポジションでは、フード構造 60 は、ジッパークロージャ 11 の第 1 の部分 64 しかカバーしない取り外し不可能なフードセクション 62 のみを含む。スライダが使用される例では、ジッパークロージャ 11 の第 1 の部分 64 は、ジッパークロージャ 11 のうちスライダ 10 が留まる部分であり、かつジッパークロージャ 11 は、閉じられた相互連結ポジションに配置される。多くの実施形態が利用可能である。図 1 に図示される例示では、第 1 の部分 64 は、ジッパークロージャ 11 の半分以上の長さになら延在しており、通常はジッパークロージャ 11 の長さの 3 分の 1 未満である。

【0047】

例示的な実施形態では、フード構造 60 は、第 1 および第 2 のパネル 25, 26 に固定されてもよい。フード構造 60 は、いくつかの例では本体パネル 25, 26 の少なくとも 1 つを備える連続したフィルム片であってもよい。いくつかの例では、フード構造 60 は、本体パネル 25, 26 に固定される独立したフィルム片であってもよい。いくつかの例では、フード構造 60 は、雄型形状部 14 および雌型形状部 15 のフィン 16 に固定されるフィルムであってもよい。多くの実施形態が利用可能である。

40

【0048】

閉ポジションでは、フード構造 60 は、取り外し可能なフードセクション 66 と、取り外し不可能なフードセクション 62 とを含む。取り外し可能なフードセクション 66 はバッグ B の残りの部分から取り外すことができる。フード構造 60 が第 1 および第 2 のパネル 25, 26 に固定されている場合、取り外し可能なフードセクション 66 は、取り外された際にジッパークロージャ 11 の部分 70 を露出させるように、第 1 および第 2 のパネ

50

ル 25, 26 から取り外される。

【0049】

取り外し可能なフードセクション 66 の取り外しを容易にできるように、さまざまな技術を用いることができる。一例では、取り外し可能なフードセクション 66 は、分割ライン 68 に沿って第 1 および第 2 の本体パネル 25, 26 から取り外し可能である。図 1 には、すでに破断された分割ライン 68 が、取り外し可能なフードセクション 66 がバッグ B の残りの部分から取り外された状態で図示されている。分割ライン 68 は、取り外し可能なフードセクション 66 とバッグ B の残りの部分（該残りの部分は例えばパネル 25, 26 ; またはフランジ 16 であってもよい）との交差部分においてフィルム上のレーザ切込み線の形態のものとすることができる。さらに取り外し可能なフードセクション 66 は、切断することによって、またはレーザ切込み線で形成され得る押抜きラインを有するかあるいはミシン目を有することによって、取り外し可能である。分割ライン 68 は、直線あるいは曲線とすることができ、かつジッパークロージャ 11 の長さにわたって広がっており、あるいは長さの一部のみにわたって広がっていてもよい。多くの実施形態が利用可能である。

10

【0050】

バッグ B は取り外し不可能なフードセクション 62 のみを含んで形成できる ; あるいはバッグ B は取り外し不可能なフードセクション 62 および取り外し可能なフードセクション 66 の両方を備えて形成できることを理解されたい。

【0051】

図 9 は、図 1 および図 4 のバッグ B に使用できる例示的な雄型トラック 14 および雌型トラック 15 の端面図である。図 9 の実施形態で使用可能な寸法の一例を挙げると : 100 は 0 . 105 インチ ; 102 は 0 . 3 インチ ; 104 は 1 . 5 インチ ; および 106 は 0 . 172 インチである。多くの実施形態が利用可能である。

20

【0052】

図 10 は、図 1 および図 4 のバッグ B に使用可能な別の例示的な雄型および雌型トラック 14, 15 の端面図である。図 10 の実施形態で利用可能な寸法の一例を挙げると : 120 は 0 . 103 インチ ; 122 は典型的には 0 . 006 インチ ; および 124 は 1 . 005 + / - 0 . 032 インチである。多くの実施形態が利用可能である。

【0053】

使用時に、バッグが取り外し可能なフードセクション 66 を有する場合、使用者は、いくつかの例では分割ライン 68 に沿って取り外し可能なフードセクション 66 を引き離すことによって取り外し可能なフードセクション 66 をバッグ B の残りの部分から取り外す。当然のことながら上述のように、フードセクション 66 の分離は切断 ; あるいは押抜きラインに沿った引き裂きによって ; もしくはミシン目に沿った引き裂きによって ; 実施することもできる。これによりジッパークロージャ 11 の部分 70 が露出される。

30

【0054】

このとき開放開始ポイントを、取り外し不可能なフードセクション 62 内に配置できる。スライダ 10 を含む場合には、スライダ 10 は、雄型および雌型トラック 12, 13 に沿って配置されており、雄型および雌型形状部 14, 15 の連結解除によって開口 40 を開放するために「開矢印」（図 1）の方向において雄型および雌型トラック 12, 13 に沿って移動される。開口 40 を閉鎖するためにはスライダ 10 はジッパークロージャ 11 に沿って反対方向つまり「閉方向」（図 1）の方向に移動させられ、雄型および雌型形状部 14, 15 を相互連結する。スライダ 10 は取り外し不可能なフードセクション 62 内を移動させられ、かつ該フードセクション 62 内に留められる。取り外し不可能なフードセクション 62 が不透明である場合、スライダ 10 は視覚的に特に子供の視界から隠される。スライダ 10 を使用しないよう選択した場合、開放開始ポイントは取り外し不可能なフードセクション 62 内に配置されており、かつジッパークロージャ 11 が開放される。

40

【0055】

50

スライダ 10 を使用するよう選択し、スライダ 10 は取り外し不可能なフードセクション 62 内にある場合に開口 40 の開放が要求されると、スライダ 10 は、多様な手法により、取り外し不可能なフードセクション 62 内から引き出される。1つの手法では、スライダ 10 は取り外し不可能なフードセクション 62 を介して摘まれて、雄型および雌型トラック 12, 13 に沿って移動させられる。他の手法では、スライダ 10 は、使用者の指でスライダ 10 を引掛けて取り外し不可能なフードセクション 62 内において利用可能となる。別の手法では、スライダ 10 を利用できるようにするために取り外し不可能なフードセクション 62 を一時的に引き剥がすことによって、スライダ 10 は取り外し不可能なフードセクション 62 内で利用可能となる。

【0056】

10

上述の説明はこの開示の例示的な原理を示すものである。多くの実施形態にこうした原理を適用できる。

【符号の説明】

【0057】

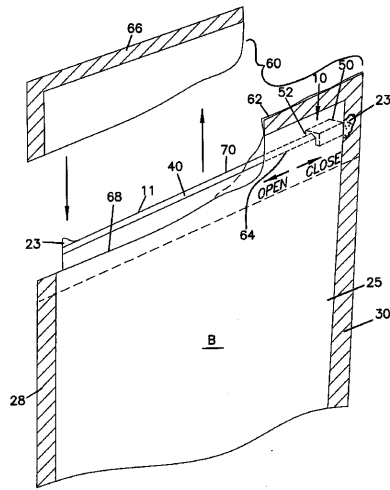
- 10 スライダ
- 11 ジッパークロージャ
- 12 雄型トラック
- 13 雌型トラック
- 14 雌型形状部
- 15 雌型形状部
- 16 フィン
- 17 本体
- 18 分離フィンガ
- 20, 21 側壁
- 22 ショルダ構造
- 23 末端クリップ
- 25 第1のパネル
- 26 第2のパネル
- 32 バッグの底部
- 40 バッグの開口
- 60 フード構造
- 62 取り外し不可能なフードセクション
- 66 取り外し可能なフードセクション
- 68 分割ライン

20

30

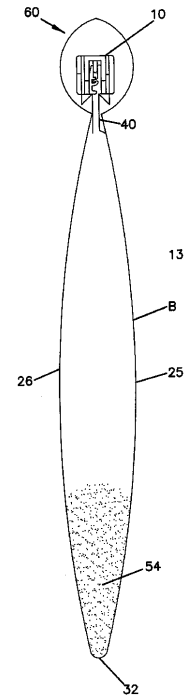
【図 1】

FIG. 1



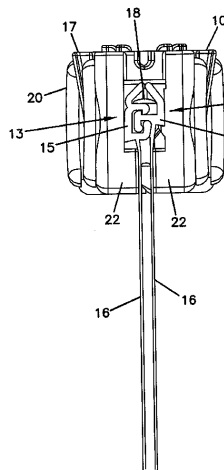
【図 2】

FIG. 2



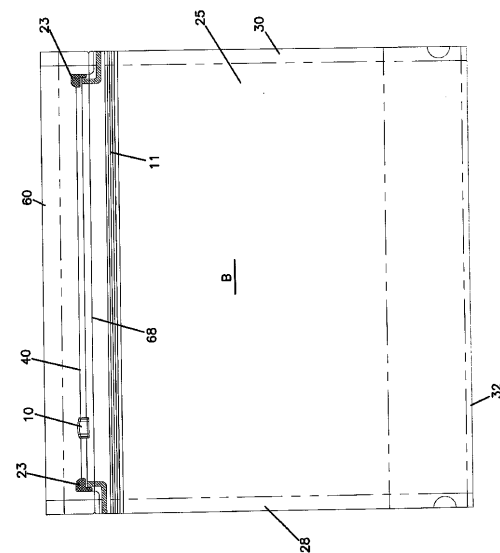
【図 3】

FIG. 3



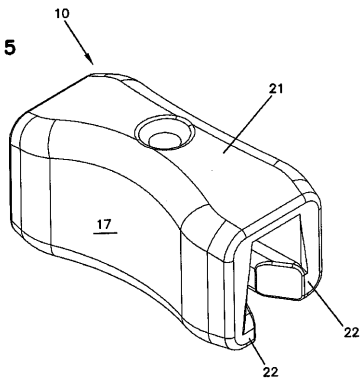
【図 4】

FIG. 4



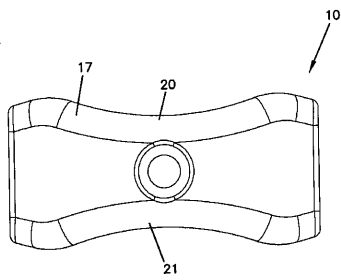
【図 5】

FIG. 5



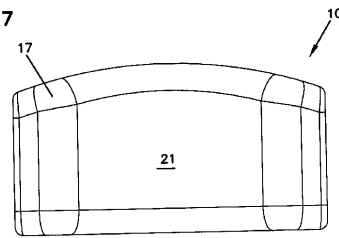
【図 6】

FIG. 6



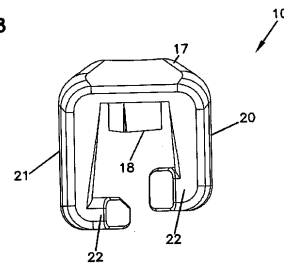
【図 7】

FIG. 7



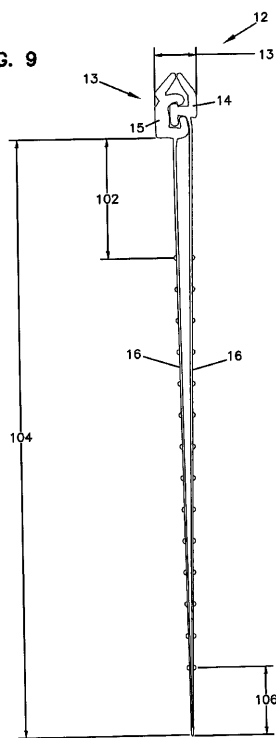
【図 8】

FIG. 8



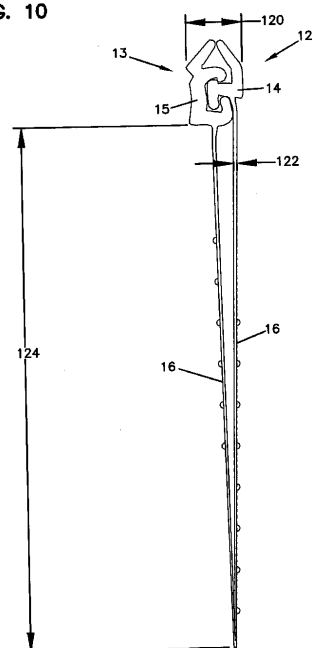
【図 9】

FIG. 9



【図 10】

FIG. 10



フロントページの続き

- (72)発明者 ロジャー・イー・ダウラー
アメリカ合衆国・ニューヨーク・１４６１８・ロチェスター・ウェストフォール・ロード・２００
５
- (72)発明者 ウィリアム・ディー・コッフィ
アメリカ合衆国・ニューヨーク・１４６１７・ロチェスター・デーク・アヴェニュー・１３２
- (72)発明者 ジャネット・エム・フルーリー
アメリカ合衆国・ニューヨーク・１４４２４・キャナンデグア・サミット・パークウェイ・４５
１９

審査官 田中 佑果

- (56)参考文献 特開２００９－０５６０７６（ＪＰ，Ａ）
特表２００５－５００８８３（ＪＰ，Ａ）
特表２００１－５０５８５３（ＪＰ，Ａ）
米国特許出願公開第２００３／０１２４２９４（ＵＳ，Ａ１）
米国特許出願公開第２００６／０１６８７７９（ＵＳ，Ａ１）

- (58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６５Ｄ ３０／００－３３／３８
Ａ４４Ｂ １９／００
Ａ４４Ｂ １９／１６